

6 令和5年度「みやぎ環境税」活用事業一覧

(単位：千円)

視点No.	新継続別	事業名	事業内容	当初予算額		課室名
					うち税充当額	
1 脱炭素社会の推進						
5	継続	みやぎの有機農業等推進事業	有機農業等環境に配慮した農業生産に対する理解促進のための取組や有機JAS認証取得に向けた支援を行うもの。	4,299	3,000	みやぎ米推進課
6	新規	農地へのバイオ炭投入に係る技術及びシステム構築事業	炭素貯留効果を有する「もみ殻」由来のバイオ炭の活用・普及に向けて、バイオ炭の農作物（大豆）生育への影響評価や暗渠疎水材としての有効性について試験研究を行う。	10,047	6,047	みやぎ米推進課
9	継続	木質バイオマス暖房機の施設園芸分野への利用促進事業	木質バイオマス暖房機によるCO2削減効果を検証し、現在主流となっている重油暖房機との組み合わせによる最適な活用方法を実証し、施設園芸分野での木質バイオマス利用技術の活用促進を図る。	6,000	5,991	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
3 気候変動の影響への適応						
31	継続	主要露地野菜生産に関する温暖化適応技術開発事業	現状の気候条件に適応する新しい作型、品種、栽培方法等を策定し、技術の普及啓発を図り、県内野菜生産量の向上に寄与する。	3,800	3,791	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
32	継続	キク類栽培における気候変動への適応推進事業	キク類栽培で高温耐性を有し赤色LED電照栽培で開花調節効果が高い品種について、8・9月の需要期出荷向けの開花調節技術を県内地域別に確立する。また、高温障害発生条件を解明し、高温対策技術の効果検証と技術の普及啓発を図る。	1,900	1,900	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
33	継続	LEDを用いたブドウ及びリンゴの着色促進効果の検証事業	ブドウやリンゴにおいて、成熟期の高温による着色不良の回避及び品質向上を図るため、LEDライトの近接照射（収穫前後）による着色促進効果を明らかにし、生産現場での活用を検討するとともに、開発技術の普及推進を図る。	1,775	1,775	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
34	継続	気候変動に適応した農業技術の効果的な社会実装事業	既に開発された技術あるいは開発過程にある気候変動適応技術について、展示実証ほを通じた生産者への展示等を行うとともに、オープンラボの機能を活用して、生産者への情報発信を行うことにより、現地への速やかな社会実装を図る。	8,293	8,281	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
35	継続	温暖化に対応した高温に強いイネづくり開発普及推進事業	高温登熟性に優れる育成系統や既存品種を比較栽培し、有望系統を選定するとともに、栽培管理による対応策を実施した場合の品質を検証する。また、高温登熟性に関連したDNAマーカーを開発する。	3,948	3,948	農業振興課 (古川農業試験場)
36	継続	地球温暖化に対応した作物病害虫管理技術の構築	夏期高温により被害拡大が懸念される作物病害虫について、各病害虫に適した発病抑制技術、農薬低減防除技術、生物農薬による防除体系の開発を行う。	3,514	3,514	農業振興課 (古川農業試験場)
37	継続	果樹の凍霜害軽減技術の開発事業	温暖化によりナシやリンゴが低温の影響を受けやすい発芽期から開花期が早まり、凍霜害の被害を受ける危険性が高まっている状況において、生産者が使いやすい防霜対策及び資材を検証し、被害軽減技術を確立する。	997	997	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
38	新規	気象災害に対応した牧草栽培技術の確立事業	気候変動による記録的豪雨の増加に伴い、牧草地更新の際に種子が土壤ごと流出してしまう等の問題が発生していることから、北海道で開発されたフロストシーディング技術（初冬期播種）が宮城県においても実施可能であるか検証するもの。	1,000	1,000	畜産課 (畜産試験場)
小計				45,573	40,244	

【農政部該当事業無】

視点2「森林の保全及び機能強化」

視点4「生物多様性、自然・海洋環境の保全」

視点5「地域循環共生圏形成のための人材の充実」